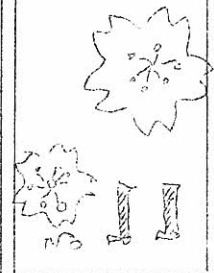


昭和四十六年八月七日 第三種郵便物認可 (毎月三回一ノ日発行)
 昭和四十七年十一月十五日 発行 (通巻第二十二号)

SSKA

膠原



事務局
 多
 木
 転
 知らせ

昭和四十七年十一月二十日

第九回 運営委員会と開き

その決議事項を御報告致します。

(一) 全国膠原病友の会 事務局と

東京都

寺山 三 文

右記の場前に移轉する事に決定しました。
 友の会事務局に對してこの御理解と協力を
 の呼びかけにより、多くの会員の皆様

から御容赦、御支援を賜り、この度
 寺山三文さんの御協力によりまして、安定
 した場所に、事務局を移轉する事のお束
 なした事、実に会の為によろこばしいこと
 と思ひます。

前事務局に於て家庭生活の崩壊、又
 過労による入院、病状の悪化、この窮状
 の中で、会、為に全精力をかけた。
 佐藤えみさんにして、心から敬意と
 感謝の気持ち一杯です。

今後は体調の良くなるまで、ゆっくり休
 んで下さい。

尚事務局の外に連絡所を作りましたので
 御利用下さい。(運営委員会のお定です)

河 西 喜 雄

塩 地 一 成

倉 田 慶 子

長 谷 部 み い 子

松 本 貞 子

お手紙 電話等が大変多いので分散し、
連絡所をもうけました。事務高でも結構
ですが、連絡所でも代行します。ので御利用
下さい。

(二) 第二回總會を四月に開く予定として
、運営各位が活動を開始する。

○十一月に總會を開く予定でしたが、
事務高の問題、その他の諸事情あり、
来春の目標に向って、皆縁と共に進んで
行きたいと思えます。

(三) 支部結成に対する助成金の問題に對
しての検討

○十一月初旬、北海道支部として現地の
白勢美智子さんが、支部結成致しました。

連絡先

白 瀬 美 智 子

の九州の佐賀県の金原富江せんが、只今
支部結成の準備中であるとの報告を
受けました。

連絡先

金原富江

これで九州支部が結成されますと北海道
より、九州迄に五支部が出来、その形態は
一採、とこのつた分です。

友の会の今後の運営と地方支部活動の活発
化にともない、支部と、交流促進等に
ついて運営委員の方々が協議しました。
其の決果、四十七年度分として支部に好
して何等かの助成金とする事に意見の一致
をみました。

これは、支部の代表者と話し、沃裁致す
つもりです。

其の他重要問題の一つとして支部の会費の
件です。この件に關しては、東京に於ても
未春、東京支部を結成しなければならぬ
もようです。四十八年として会費
部、各地域支部に入つて居る方達の会費
を如何にするか、良い方法を検討中です。

(四) 事務局移轉に關して、細部打合せ。

印刷物の整理。会員からの御手紙の整理
の。新入会員の手續。会計担当者への選入
等。会費も毎月三丁名近くの。新入会員
があり、事務局としても申込等々他の
一件書類の發送に佐藤さんの変りに。

重に青山三みさんが代行してくれませんが、
会計その他、運営委員の人達が各々分理
してやる事になりましたので、よろしく
お願い致します。

尚含量納入に済ましての郵便振り込みは

従金通り

(番号) 東京一六〇九六

全国膠原病友の会

平数科は50円です。

ありがとうございます。

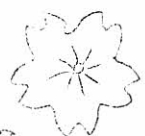
貴族の空を空ともして出ました
膠原病手帳 // 皆様御存知と思
います。その返御採り、会の為

にと是方所の御空附のありました。其の他

賛助金として川崎病院長。勝克全

南條のぼる様、石川屋の種山さん、田甲芳子

さん 其の他多数の方より多額の御空附
と戴き感謝致して居ります。



十一月八日 N.H.K.
こんにちわ 眞人さん

膠原病として事務局長の佐藤さんの
テレビにお浸しました。

投福!!

或る雨の日の感動

佐藤 エミ子

十一月二十五日、その日は朝から東京の空は
低く小雨の降る重音しい一日でした。
その日の昼さぱり一通の手紙が私の胸を
強く打ちました。

是れ全国の皆様に御紹介し、この幼い
由美ちゃんに取らないように、泣くのは
やめて、勇氣と生きている希望を持って戴き
たいと思ひ、こゝに御紹介申し上げます。

「宗文のまま」

たいへんお世話になりましたが、ヤツと十六日にたい院で暮ることにになりました。

たい院日が近ずいてからは、自分のびよう気のことよりも、学校へいつて、みんなとおなじように、学校せいがつが、できるかどうかというこのほうび、とても心配になつてきました。

びようまのためは、まえのせいがつのことや、学校でべんきようしたことをわすれてしまつたからです。

あともたちは、みんな元気なのに、どうして自分だけがこのようにびよう気になつてしまつたのだらうと思ひます。

びよう気とは、自分のしあわせの一日一日を、ひとりではとりこわしていき、さいごには、このくるしい思いを体の、そこにすこしづつ、あとしていくのですね。

おけなせ、自分がこのような、びよう気にとらわれてしまつたのが、それを思うと、とてもこのびよう気がにくくて、にくくて

しかたがありません。一日のせいがつの甲でこのびよう気にかつて、びよう気がまけたと、いうように

なつてみたいと、私は思ひます。私に、どうしても、まえの自分にまどりのいのびす。

びよう院のせんせいがたにはとてもしんせつにしていたたい、ほんとお世話さまになりました。さとうさんからも、ようしくあつしやつていただけせんが……

十一才の由美ちゃん、自分の病文をじつとみつめて、そして、その苦しい中から、自分の力で、ほい上らうと……という勇氣

和達大人がフヨ、三月から発熱がつづいて、敵えられまゝ。三月から入院した。ハ、ハ、ハ、いつて苦しい入院した。由美ちゃん、様々な症状にあひ、それに

専門医の先生方も、なか／＼診断が下す事の本業ないと、去つた状態でした。

そして、SLEと診断が下つてからも、一時は精神症状にあらわれ、記憶を失ひ、いきだ、漢字が全部読めなさいとの事、

そんななかで、はつきりした力強い文字で書いてある、この手紙に私は深く感動いたしました。

(7) ページから (8) ページ上段までは、

会員名簿のため

掲載しておりません。

編集後記

事務多岐に及り、今更
遅れまじと申をお詫び
致します。

運営委員の方々の御協力

により、友の会も何とか

軌道に乗れる事と思ひ

ますので、皆様から

の御援助をお願ひします。

海西

編集発行

東京都世田谷区瀬田町

5024019

電話 (03) 700-1608

藤原 編集部

昭和四十六年八月七日
昭和四十七年七月十日

第三種郵便物認可 (毎月三回発行)

日本経済新聞社発行
東京新聞社発行